

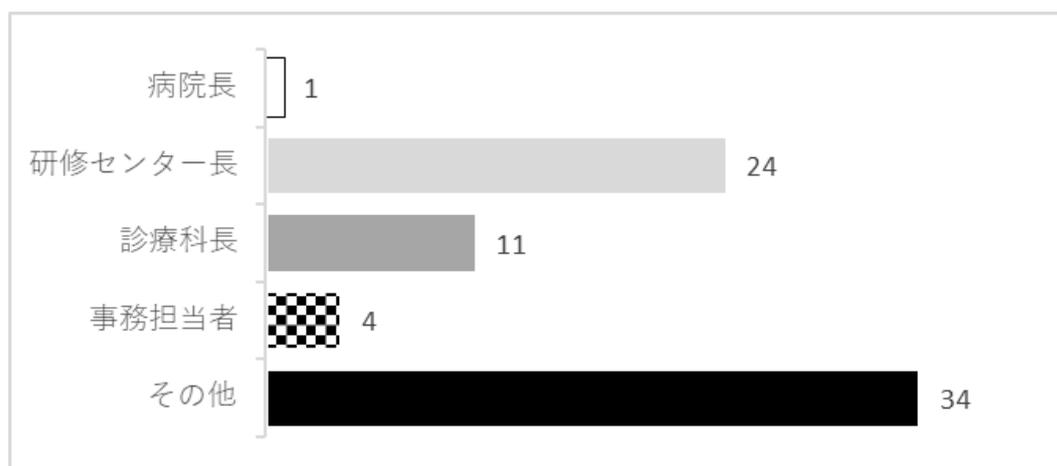
## 2023 年度 卒業生の学修成果に関する調査

本学卒業生が就職した初期臨床研修先施設に対しアンケートを実施しました。  
個別調査票を郵送し、web データ集積管理システム REDCap でご回答いただきました。

実施期間	2024 年 2 月 15 日～4 月 30 日
2022 年度就職者数	86 名
対象者数	75 名（本調査に同意した者）
有効回答数	69 名（回答率 92.0%）

### 1 回答者について

（複数回答可）

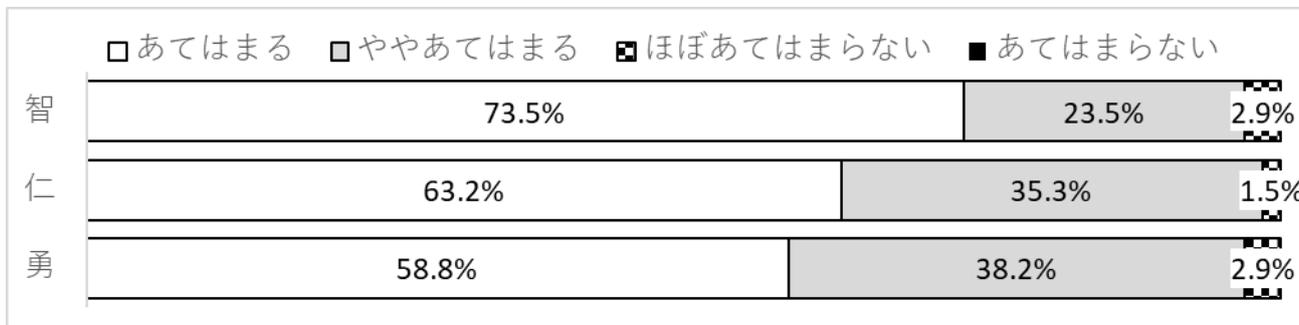


その他：准教授、講師、医長、医局長、病院講師、研修オーベン、科内研修医担当、研修副センター長、研修センター教員、研修センター職員、プログラム責任者、研修委員会委員、診療科指導医など

## 2 卒業生の学修成果について

### 2.1 本学の理念

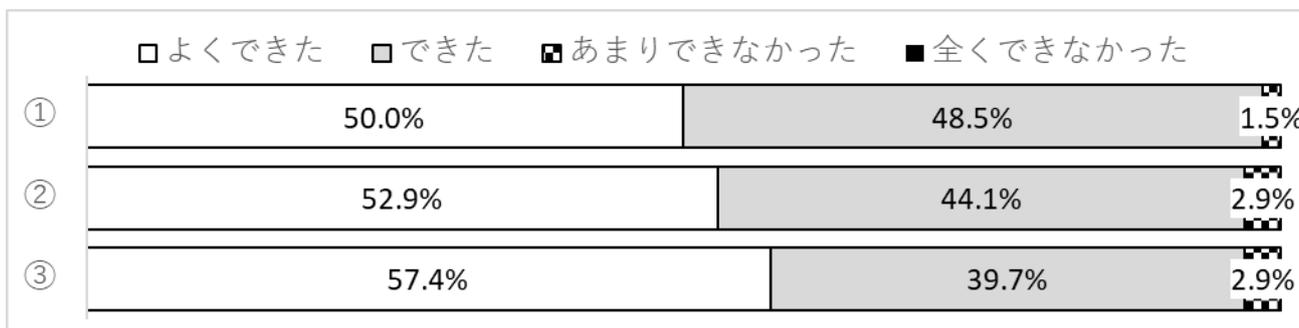
- ・「智」すなわち医学的知識と技能を習得することのみならず、効果的な学修のためのアルゴリズムを獲得し、生涯にわたる自学自習を開始できる
- ・「仁」すなわち人を分け隔てなく、温かく受け入れる心を身につけ、国際的視野を持ち、人類に貢献する高い志を習得している
- ・「勇」すなわち科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を身につけ、修得した医学を実践する決断力を習得している



### 2.2 本学の卒業時コンピテンス・コンピテンシー

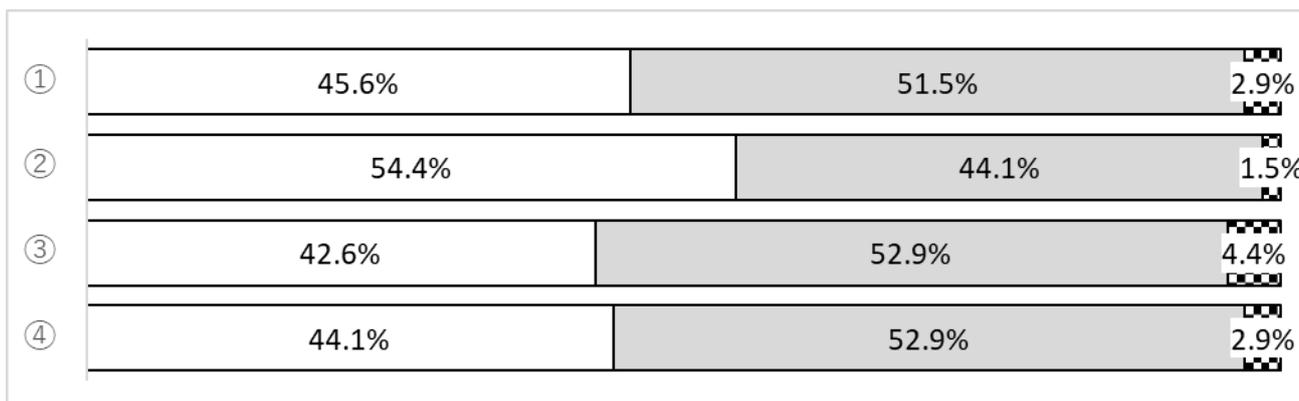
#### 【プロフェッショナリズム】

- ① 患者および家族のニーズを認識し、患者中心の医療を提示、実践することができる
- ② 医療専門職として社会における自己の役割を理解し、継続的に学修することができる
- ③ 高いモラルを持ち、品性のある行動をとることができる



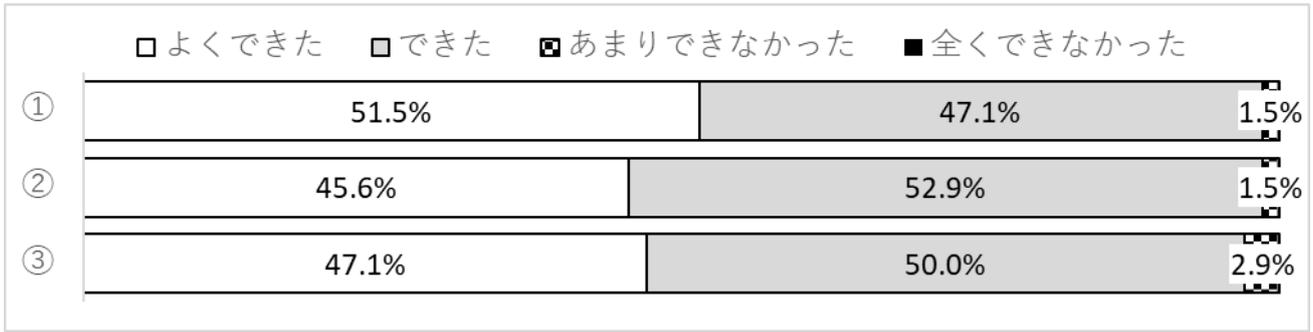
#### 【医学知識と問題対応能力】

- ① 診療や研究の基盤となる基礎医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ② 診療や研究の基盤となる臨床医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ③ 診療や研究の基盤となる社会医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ④ 医療の基盤である生命科学、行動科学などの関連領域の知識と原則を理解し、医療の現場で実践することができる



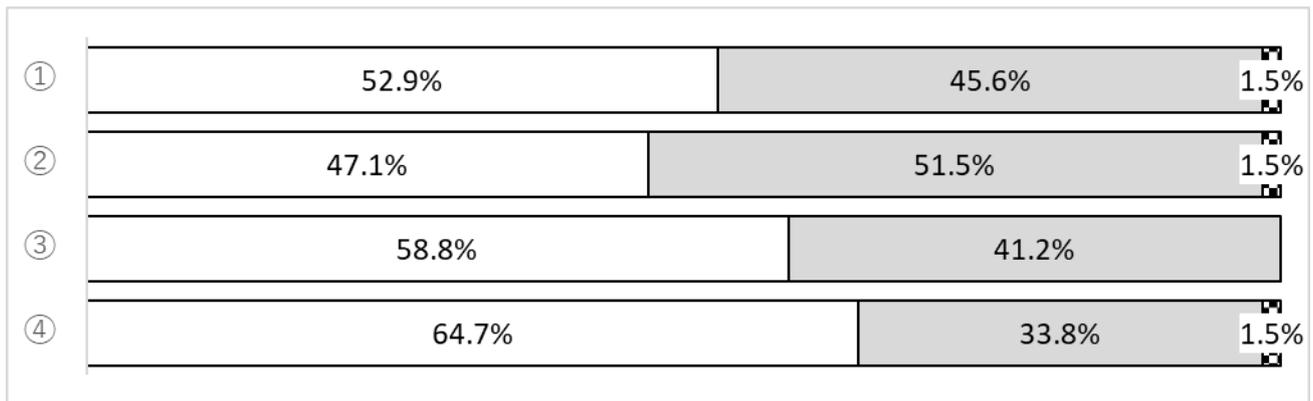
**【診療技能と患者ケア】**

- ① 論理的で体系的な医療面接、身体診察を行うことができる
- ② 頻度の高い疾患に関して、適切な鑑別診断と治療戦略を立てることができる
- ③ 基本的な臨床手技や緊急救命処置を安全に実践することができる



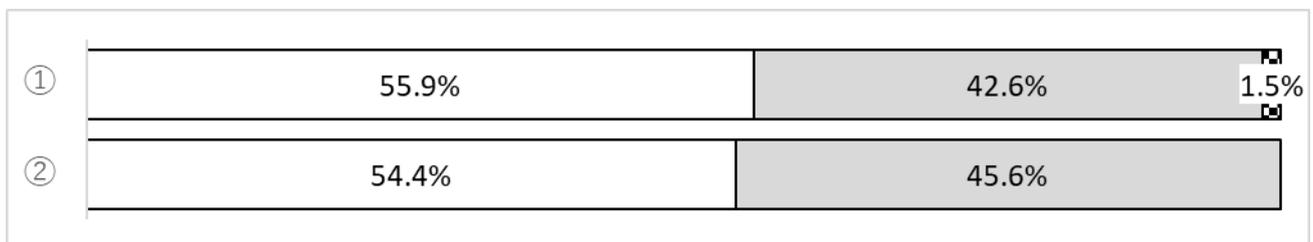
**【コミュニケーション能力】**

- ① 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる
- ② 患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握することができる
- ③ 適切な症例プレゼンテーションを行うことができる
- ④ 患者の状態について、報告・連絡・相談ができる



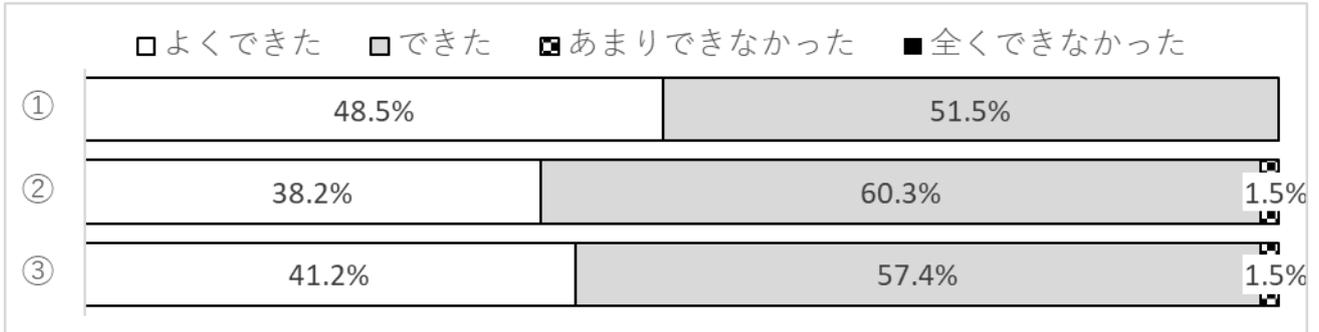
**【チーム医療の実践】**

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る



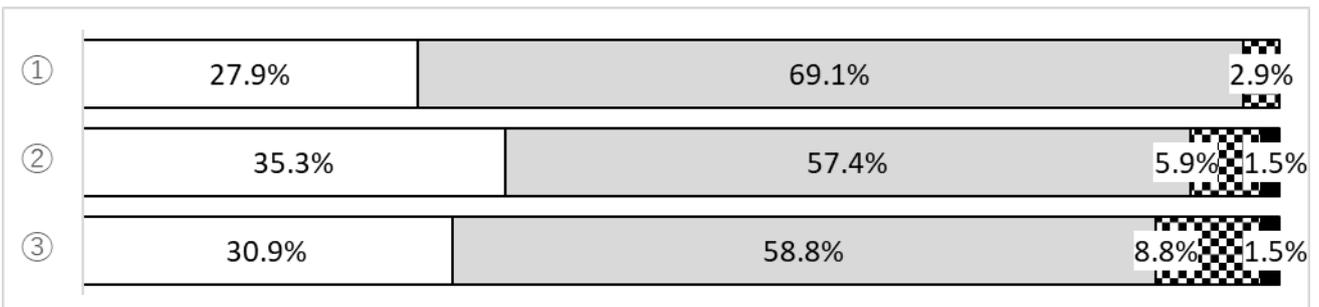
【医療の質と安全の管理】

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解する
- ② 医療事故等の予防と事後の対応を知る
- ③ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む）を理解し、自らの健康管理に努める



【社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力】

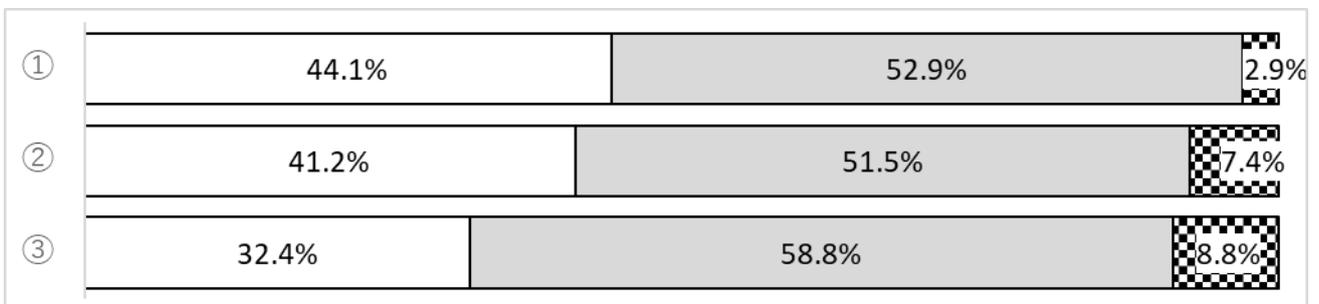
- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する
- ② 大阪の地域医療に携わり、指導/監督のもと診療に参加できる
- ③ 大阪の医療の現状、課題を理解する



※②、③について、「あまりできなかった」「全くできなかった」と回答のあった7レコードのうち、3レコードは大阪府外の施設でした。

【科学的探究】

- ① 医学及び医療上の疑問点を挙げることができ、適切にエビデンスを収集できる
- ② 科学的研究方法を理解する
- ③ 研究の意義を理解し、参加、協力できる



### 【生涯にわたって共に学ぶ姿勢】

- ① 国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を学び、吸収できる
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことができる



### 2.3 総合評価



### 2.4 ご意見

- ・将来が楽しみです。
- ・非常によくできていました。
- ・非常に優秀で、やる気も満々です。
- ・とても優秀で人柄も申し分ありませんでした。
- ・非常に優秀で、積極的に研修に参加できます。
- ・物腰が柔らかく、とてもまじめな研修医でした。
- ・責任感のあるリーダー的存在として頑張ってくれました。
- ・感染防止委員会の委員として1年間役割を果たしてくれました。
- ・もともと優秀な研修医で、2年間の間にさらに成長したと思います。
- ・真摯に研修できていたと思います。ますますのご活躍を楽しみにしています。
- ・医療安全対策委員会の委員として、1年間しっかり役割を果たしてくれました。
- ・研究を続けたい立派な考えがあるが、同時に給料もあるか?気にしていなかった
- ・まだ研修開始から日数がなく、実質的な評価は難しいが、しっかりと研修に取り組んでくれています。引き続きの研鑽に期待しています。
- ・医学的知識の縦の統合、すなわちマクロな視点(臨床疫学と臨床推論)とミクロな視点(解剖、病態生理、生化学)に努めるのが良いと感じました。
- ・自らの将来を見据えた、研修プログラムを提案し、積極的に実践していた。研修医の仲間の悩みを聴き、研修環境の改善点を委員会に進言する姿勢があった。
- ・2年間の研修において、個々の症例について丁寧な診療を行い、患者家族や医療スタッフとも良好な人間関係を築けていた。また学会発表も行い、自ら学ぶ姿勢を持続できた。
- ・自ら将来を見つめた研修を考え、委員会に研修プログラムを提案し、積極的に学ぶ姿勢がありました。また、地域医療体制と急性期病院との連携をよりよくするための提案ができていた。
- ・研修に非常に熱心に取り組んでいました。各症例に対する個別的な取り組みに加えて、医療に関して、さらに俯瞰的な視点を持って対応することができるようになれば、より成長が期待できるものと思います。
- ・比較的難しい手技や処置を監督下に十分に習得できたと思われる。病棟業務や初療室も非常に

頑張ってくれ、将来同じような研鑽姿勢であれば、どのような科でも活躍していけるのではないかと拝見しています。引き続き頑張っって研鑽を積んでもらいたい。

- ・ゆるぎない成長心と向上心を持ちオンオフにかかわらずすべての研修期間におけるイベントに全力で打ち込んでいました。すべてのかかわる職員や患者に対し自分の持てる知識や学習を適応し学習すべき疑問点を的確に抽出することができていました。周りにもポジティブな影響を及ぼし、今後の活躍に大いに期待できると思われます。また特筆すべき英語への語学力を有していました。
- ・臨床能力、ノンテクニカルスキルともに非常に優秀で、初療管理で呼吸や循環の悪い患者の処置なども監督下に安心して手技を任せることができました。病棟管理も不明点を明瞭に質問をしたり、自身ですべき Action を持って相談に来るため、他の救急科スタッフからも圧倒的な信頼感を得ていると思います。これから脳神経外科医として働かれる前に、全身管理・集中治療を勉強したいと選択してくれました。多くの経験をしてもらっていると自負するとともに、他院でも活躍されることを祈念しております。
- ・特になし

**【カリキュラム評価委員会戦略部会からのコメント】**

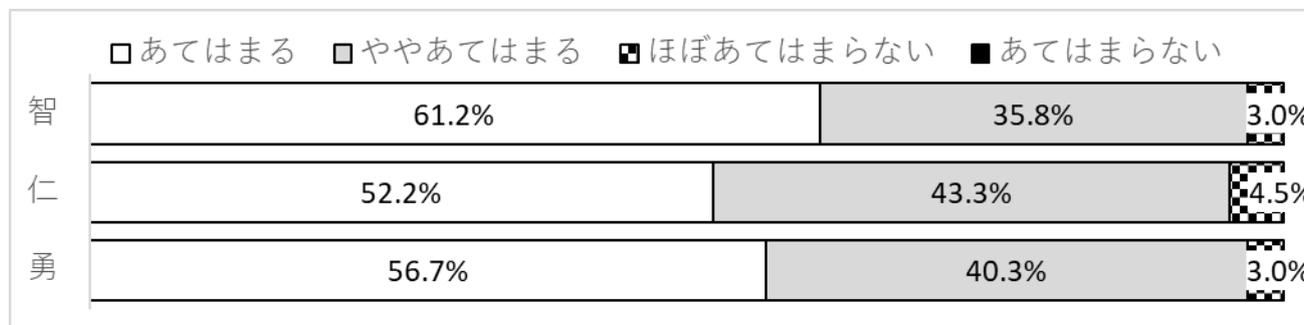
「社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力」は経年的に向上がみられ、選択型 CC における EX の改善が功を奏していると考えられる。

研修先施設に満足いただける人材を輩出できており、教育プログラムに問題は見受けられない。

### 3 本学卒業生全体の印象について

#### 3.1 本学の理念

- ・「智」すなわち医学的知識と技能を習得することのみならず、効果的な学修のためのアルゴリズムを獲得し、生涯にわたる自学自習を開始できる
- ・「仁」すなわち人を分け隔てなく、温かく受け入れる心を身につけ、国際的視野を持ち、人類に貢献する高い志を習得している
- ・「勇」すなわち科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を身につけ、修得した医学を実践する決断力を習得している



#### 3.2 本学の大学教育についてよいと思うこと

- ・ 地域医療に理解があるところ
- ・ 勉強する姿勢ができています
- ・ 真面目に何事にも取り組んでいる。
- ・ 概ね学んでいこうとする姿勢はある。
- ・ 外から見ていてとても熱心だと感じます。
- ・ 思っていることを、あっさりと表現できる。
- ・ 基本的な知識がしっかりと身に付いています。
- ・ 積極的に研修に参加しているので、良いと思います。
- ・ 積極的に研修に参加できるようになっているので、良いと思います。
- ・ 外から見ていてとても熱心で、大学の医局の一員として誇りに思います。
- ・ 本学生にとって、将来の研究分野に進むにあたり、基礎項目を教育できた点。
- ・ 外から見ていて、とても熱心だと思います。他の大学病院と比較してもすごく違いを感じます。
- ・ 数年に1人くらいの割合でマッチングしています。皆、真面目でコツコツと研鑽を積んでいます。
- ・ 患者さんの気持ちを理解して、医療スタッフとも協調性を持って、自らも努力をする良い人材が多いと思います
- ・ 当院で研修される先生方は優秀な方々だと思いますが、もう少し固定的な先生がいても面白いのではないかと時々思います。
- ・ 研究職に就かずとも、臨床をしながら社会貢献に寄与する臨床研究の視点を持ち続け、活動を行う。自身のみならず他者に対しても教育的な姿勢がある。そのような人材が多い印象を受けます。
- ・ 学生時代によく教育されている。
- ・ 広く知見と経験が得られ評価が確か。
- ・ 学生に色々と実践させようとしている所
- ・ 卒後研修にスムーズに移行できる実地臨床を重視している点

- ・知識や技能を習得する意欲が高い卒業生を送り出している。
- ・医師としての、知識のみならず、人間性も育む教育体制が整っていると思います。
- ・外泊などで、積極的に外部環境を経験させて、幅広い視野を得られる機会を提供している。
- ・早期から Exposure として病院実習を開始し、医師としての他職種とのやりとりの重要性を認識する機会を与えている点。
- ・1年～6年生まで教育のシステムが確立されている。屋根瓦方式、SSCでのシミュレーションを使った教育は特に素晴らしいです。
- ・学生に医師として働くことの意義を早期から認識してもらえよう、病院実習など Exposure 体験が早いのは良いことと思われる。
- ・所属するセクションはすべての研修医がローテートするため、全員を俯瞰的に眺めた場合、大阪市立大学卒業生の医学的知識、社会的規範、問題解決能力は総じて平均値が高い。質の高い大学教育を行っていると感じます。
- ・診療科の特性から2年目以降の研修医のみの評価となりますが、研修後の進路として当科を希望あるいは検討している先生方は研修を通して学び取る意欲が強く感じられました。専門的知識を深く学べることは、大学教育の利点かと思います。
- ・医療の基礎から臨床まで、能動的に学ぶ姿勢を育む教育をしている。自ら目標を立て、指導を仰ぎつつ、知識や技能を身につける姿勢がある。あらゆる職種や患者家族と良好なコミュニケーション能力を習得している。後輩の指導を屋根瓦式に教育できる。
- ・ローテートしてくる研修医の出身大学をすべて覚えているわけではないので、正確な評価ではないかもしれませんが、本学出身者はおおむねまじめで良いと思います。しかしやや受け身の人が多いので、もう少し前向きに取り組む人が出てきてほしいと思います。学生のCCでもできるだけ学生さんにしゃべってもらうようなアクティブラーニングを意識しているのですが、自分からしゃべってくれる人はなかなかいません。もっと気楽に参加できるCCの形態を考えようと思っています。

### 3.3 本学の大学教育について改善すべきと思うこと

- ・グローバルな視点をより持つと良いと思う。
- ・科学的探究心と国際的視野を広げる努力が不足している点
- ・本学に限ったことではないが、もっと責任感を持たせる教育が必要だと思う
- ・グループワークや屋根瓦教育、能動的学習を行いやすい講堂を作っていただきたい。
- ・関連施設もあまりない状況で卒業生はどこで働けばよいのか、また地域枠とはなんぞや?を考えさせられた
- ・学生への教育では診療科と言うよりも患者本位のシームレスな教育へ移行している様に感じています。反面実臨床では診療科の垣根がまだ強いように思われます。
- ・医師として診療にあたる上での研修段階の知識については十分に身につけるだけの教育が施されているように思いますが、もう少し積極的に物事に対応できるような人間教育も期待したいです。
- ・私自身も本学卒業であるが、大学教育、特にBSLにおいて、大学病院におけるヒエラルキー、セクショナリズムに多分に影響を受けると、萎縮してしまいがち。業務遂行上の足枷になりかねない。大学病院組織全体の風通しがもっとよくなればと願います。
- ・教員の負担が大きいと感じるときがあります。
- ・特になし(8)

**【カリキュラム評価委員会戦略部会からのコメント】**

卒業生全体の印象として智仁勇をいずれも備えており、本学の理念に沿った人材を輩出できている。